

平成28年度農業後継者特別支援事業

事業実施主体名 瀬戸内町担い手育成総合支援協議会

1 目的

本町では営農研修施設を活用した就農希望者の受入体制があり、パッションフルーツの技術習得を主体に就農者の確保・育成に努めている。しかし、施設投資や労働力の観点から、パッションフルーツ専作型では安定経営の維持が困難である。

そこで、複合品目として柑橘類に関心のある新規就農者群を対象として、柑橘の経営・技術に関する学習プログラム（基礎講座、事例研修）の実践で研鑽を図るとともに、新中晩柑である「津之輝」の技術実証や高木樹園地の再生利用にも着手しながら、今後の可能性も含めて総合的な検証を行った。

2 実施状況

- (1) 新規就農者群の基礎技術力を高めるための農業基礎講座（果樹編、土壌肥料編）を開催して習熟に努めた上で、地域における課題や今後のめざすべき方向性についての示唆を与えた。
- (2) 新規就農者が今後取り組むべき柑橘に関する事例について、計画密植栽培による早期成園化や特徴のある温州・中晩柑類などの取組事例について、島外（大崎町・肝付町・垂水市・徳之島町）、島内（宇検村・大和村）を含め訪問調査を実施し、今後の議論材料のための情報収集に努めた。
- (3) 域内流通を前提とした温州導入の可能性について検討すべく、本土から優良極早生品種を取り寄せての試食検討の場を設けた。
- (4) 奄美における新規品目として期待の高い『津之輝』について品種特性を踏まえた施肥体系確立のための実証試験に取り組み、またその実施状況についての現地研修会も企画・開催した。
- (5) 高齢化等で荒廃園地化しつつある現有資産の有効活用の観点から考案したカットバック再生術を2園地で実際に行い、各地域における新規就農者への円滑な園地流動化の切り札として検討していくことを確認できた。
- (6) 本事業の一連の取組の結果として、この3月に柑橘に関心の高い新規就農者群13名を含む全16名で『瀬戸内かんきつ技術研究会』が設立され、学習組織の母体ができあがった。



3 今後の課題、取組

- ・『瀬戸内かんきつ技術研究会』の活動強化
- ・実証課題の経過観察および成果についての研究会員での共有
- ・新規植栽者の利用可能な実践指南書の作成